

お金と仕事について

マジメに考えることから

逃げている人たち、

「本当にこのままでもいいんですか？」

はじめに

私たちは、お金についてあまり考えることをしません。というか、考えたくないから。そ、私たちはお金と向き合うことを避けてしまいがちです。

世の中には、お金を稼ぐ方法も、出費を減らす方法もいくらかもあります。そんなこと、だれでも知っているはずなのです。

しかしそれを、

「なんだか難しそう……っっていうか、面倒くさいし……」

そんな理由で何もしていないのではないですか？

知っているけどやってみようとしない。それは、知らないことと同じです。

ある日通勤電車でまわりを眺めていると、次のような光景を見ました。

ある若い男性は、携帯電話でゲームかメールをしています。そしてもう一方の男性は、自己啓発書を読んでいます。

若者のおかれている状況が二極化しているのがよくわかります。もう将来に希望がもちづらいので今を楽ししく生きるか、将来に希望をもつために競争に勝とうとしている姿です。一方、年配の男性社会人は小説を読んだり、「直江兼続に学ぶ領国経営」のような現実的に応用することが難しそうな特集が組まれている歴史雑誌を読んでいます。

この通勤電車の光景ひとつとっても、逃げ切った世代と逃げ切れなかった世代の明暗がくっきり分かれているような気がします。

国税庁のデータをもとに計算してみると、10年前に比べ、日本人の平均年収は2割減。生涯所得に換算するとおおよそ2000万円。そして今後は、経済のグローバル化、国全体の高齢化、会社の高齢化により、日本人の給料はまだまだ減っていくと考えられます。

あなたは今の現実を、どう見ますか？

あなたは今、何歳でしょうか？

この先の人生のために、いくらのお金を残しておかなければならないのか知っていますか？そのために、何か特別なことをしているでしょうか？

「考えなくては」と思っていたとしても、実際に行動できる人はほとんどいないと思いま

す。お金について真剣に考えるというのは、パワーが必要なのです。

しかし、おわかりのように、人生はお金と切り離して考えることはできません。避けて通ることができないのであれば、早めに考えておくに越したことはないはずです。

……と、このように偉そうなことをいつている私も、数年前まではお世辞にも賢くお金を使っていたとはいえない状態でした。

私は独身時代、毎日遅くまで働いていました。残業代もきっちりである会社でしたので、給料は少なくともなかったと思います。それなのに、私の手元にはあまりお金が残りませんでした。なぜでしょうか？原因は簡単です。お金を、何も考えずに使っていたのです。

- 週に何度も飲みに行く
- 終電がなくなるまで飲んでしまう
- とにかく外食する
- ムダに広くて家賃の高い部屋に住む
- 「もっておけば使えるだろう」と買って以来1度しか着ていないブランドものの服
- ATM手数料、振込手数料、生命保険、携帯電話など注意すれば防げるムダな支出

ただ、そういう生活のなかでも、「将来のために貯めなくては」という気はあったので、少しずつだけ、あまったお金は全額銀行の普通預金へ入れていました。

しかしその金利は、0・1%にも満たないもの。預金通帳を見ると、利息はたったの6042円でした。

日頃の仕事では、会計士として会社の新規事業の効率性、会社が投資する資金の回収可能性についてシビアなりアリストとして計算・吟味していても、**自分のお金となるとあり得ないような非効率な使い方をしていたのです。**

しかし、あるときお金の重要性に気づき、

◎ 支出を見直し

◎ 収入の可能性を考え

◎ そもそもお金に対する考え方を変えた現在では、

支出は1年間で半分に、給与以外の投資による収入も1年間で**100倍**以上に増えました。そして、増えた所得の分だけ労働時間を減らし、妻の労働時間は3年前より**720時**

間短縮しました。結果的に収入を減らすことなく、仕事に拘束される時間を大幅に減らすことができたのです。

この本では、私たちが夫婦が家計を見直すなかで試行錯誤して、たどり着いた考え方や実践的なノウハウをご紹介します。

しかも、必要なはだれでも簡単にできる計算と数字だけ。

「もっと早くこうすればよかった……」と思える反省点もふまえて、私たち夫婦より若い人たちにもっと賢いお金の使い方をしていただけるような本にしました。

今、こうしてこの本を手にとったいただいたみなさんには、私が20代のときにやらしたお金の失敗を回避してもらい、その上で「今より2割増しの生活」を得られるようになることを本書の目的としています。まず、お金について知ること、考えること、そしてその考えを実行することで、身のまわりのお金にかかわることはみるみる改善します。

20代のみなさん、お金と仕事について今こそ真剣に考えてみてください！

本書が、その最良の機会となることを願っています。